

横浜市小学校社会科研究会

3学年部会

研修会記録

第 2 号

令和5年 8月2日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 権正 倫範

【提案日時】

7月 5日 (水)

提案 沖田 莉子 先生 (白幡小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 増田 哲平 先生 (西本郷小)

記録 藤田 秀悟 先生 (田奈小)

1 提案内容 単元名

単元名「わたしたちのまちと市 ～私たちの素敵なまち白幡、もっと知りたい横浜市～」

2 提案者より

○研究会主題について

視点①子どもたちのみとりから単元をつくる手だて

視点②協働的に学びを深めるための手だて

○今日の研修会のポイント

- ・全体の共有では、比較の視点をもつことが大切であること。どのようにもたせるかが課題である。
- ・根拠となる資料となるように、どのような材を選ぶのか。

①—1 一人ひとりが問いをもてるような社会的事象との出会いを大切にする。

- ・一人ひとりをしっかりみとり、それぞれの問いを生かした単元づくり。
→屋上からのまちの様子を見ることで、白幡のまち全体を知りたいと思えるようにする。
- ・屋上からまちを見る体験を行うことで「白幡のまちはどのような様子なのだろう」という子ども達から疑問を引き出した。

①—2 一人ひとりをしっかりみとり、それぞれの問いを生かした単元をつくる。

- ・一つの事実で終わらないように問い返しをする。
→情報の比較、高低差に焦点化することで、まちの様子がはっきりと違うことが分かるようにする。

② 子どもの思考に沿いながら、協働的に学びを深めるための手だてを大切にする。

- ・予想と結果を大切にしながら比較する。
全体で共有した「まち調べ」の視点を生かした絵地図の作成。

2 協議会

○子どもたちの予想や疑問を生かす。

- ・3年生の学習は比較することが大切。高低差の学習は、地図の等高線の学習に生きる。
- ・高低差に注目することで、市の学習に広げていくことが可能だろうか。
- ・坂が多いから、マンションが多いなどの予想は果たして的確なのだろうか。

○協働的に学ぶ。

- ・他の視点と比較するには、2つの地図が必要。整理、つながりで時間を分けて行う必要がある。
- ・地図の作り方を任せすぎると、地図を比較するときに苦勞する。
- ・地図が細かすぎると理解できない子どもがいるのではないか。「この辺は…」など大まかに理解するような地図を用意したほうがよいのではないか。
- ・高低差のように、視点をしぼることで比較がしやすい。大まかに捉えることが大切。

<講師の先生より> 日枝小学校 加藤智敏校長先生

3年生の社会の難しさがある。初めて学ぶ子どもたちにとって大切なことは何か再度確認してほしい。何をきっかけに、まち調査をすることになったのか、子ども達がきちんと分かっているとよい。自然条件と社会条件を結び付けていくことを丁寧に行ってほしい。今回の学習の場合は、土地の高い所と低い所に何かあるのかを調べることから、見えてくることがあったのでは。調査の視点を広げすぎずに、適度に狭めてあげることが、3年生には必要なのではないか。また、学習の導入は子ども達の日常から始まると子ども達の学習問題になりやすい。例えば、「登下校の大変さ」から高低差に着目するようになり、高低差を重点的に比較しながらまちの特徴を捉えていく実践を行ったことがある。視点は、高低差で捉えたまちの特徴から、少しずつ転換して、他の視点でも、みていけるようにしたらいいのではないか。

この単元を学習するにあたっては、教師が「自分たちのまちがどんなまち」なのかを、捉えている必要がある。教師が捉えていないのに、児童に考えさせるのは無理がある。最初から難しい言葉を使わずに子どもから出た言葉で学習をまとめていくと3年生に分かりやすい授業となる。上手にそれぞれの事象を繋げてあげることが大切になる。

文責 北沢 宏 (間門小学校)